

病院に勤務する歯科衛生士の業務内容および診療報酬意識に関連する要因について

要 旨

令和 7 年度 修士論文

病院に勤務する歯科衛生士の業務内容および診療報酬意識に関連する要因について

本研究の目的は、病院歯科に勤務する歯科衛生士を対象に(1)業務内容の現状を明らかにし、(2)診療報酬に対する意識に関連する要因について調査した。その結果、周術期等口腔機能管理や入院患者への口腔衛生管理は高い実施率を示し、病院歯科の重要な役割として定着していることが確認された。一方で、摂食・嚥下関連する業務、退院支援、多職種業務などの実施率は低く、病院組織の特性や人的資源の制約が影響している可能性が示唆された。また診療報酬意識の分析では「科の方針」がもっとも強く関連し、個人の知識や興味よりも組織文化・業務体制・役割認識といった構造的要因が意識形成に影響していることが示唆された。以上より、歯科衛生士が専門性を発揮し、診療報酬制度を適切に活用していくためには、個人への教育の充実だけでなく、組織としての明確な方針提示、学習機会の確保、業務負担の調整などの支援が不可欠であると考えられた。